

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 26 年 (2014)

大宮八幡祭り(秋の大祭)号

第 100 号記念号

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

大宮八幡祭りを迎えて……………	2 頁
大宮八幡祭り (秋の大祭) のご案内…	3 頁
十五夜の神遊び……………	4 頁
御鎮座 950 年式年奉祝記念事業……	5 頁
杜の話題……………	6～8 頁
大宮八幡の杜 秋も深まり……………	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……	10・11 頁
フォトコンテスト入選発表 第二回作品募集……………	12・13 頁
社報 100 号を振り返って……………	14・15 頁
大宮八幡祭り社頭風景……………	16 頁



第 29 回神輿合同宮入り 9 月 14 日

大宮八幡祭りを迎えて

宮司 鎌日 紀彦

お蔭様で当宮の社報「大宮」も第二〇〇号となりました。年三回の発行で社主と氏子・崇敬者を結ぶ広報誌として専ら神社の祭事・行事・出来事をお伝えして参りました。 小生は第五三号より係わって参りました。神職の使命として当り前のことではありませうが、ご祭神のご神徳の発揚と祭祀の厳修を旨として神明奉仕させて頂き、延いては社頭収入の増収を図る為には、ご社頭に少しでも多くの氏子崇敬者の方々に「ご参詣頂きたい」との念頭のもとに、新たに祭事や行事を企画してご奉仕させて頂いております。

最近の祭事としては、7月24日・25日の両日に亘る「納涼大宮天神こどもまつり」があります。近年では当宮設立の幼稚園園児や小中学生、一般の方々より奉納の書画行燈を飾り、氏子青年会奉仕の模擬店（夜店）も出て多くの家族連れの参詣者で賑わうようになりましたが、当初はゴズミック曆（マヤ曆）を使用されているアーティストの方から一年に一日の特異日（空白の日）である7月25日に「時間をはずした日の祭事」として和太鼓の演奏を奉納したいとの申し出があった事により始めたものです。25日は天神様のご縁日であり、当宮の境内社大宮天満宮の夏祭りとしてご奉仕することに致しました。今ではすっかり夏の風物詩として定着し、「こどもあかり神輿」の渡御や神輿振り、「こどもミニ花火の集い」も行われ、今年で第14回を数えております。嘗ては1月25日の初天神祭のみでありましたが、7月は「大宮天神こども祭り」、毎月25日には「大宮天神月次祭」もご奉仕しております。

この他には「平安の七夕乞巧奠飾り」があります。「七夕の神遊び」（7月7日）を中心に、「二週間に亘り「平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事」や「七夕人形笹飾り」、職員の奏楽技術の向上を祈る期間中2回の「雅楽と神楽の夕べ」等もあり、これらも第16回目をご奉仕致しました。



さらに秋の大宮八幡祭りを奉祝して重陽の節句「菊被綿飾り」や「二〇〇

基の竹燈籠に献燈して行う「十五夜の神遊び」（仲秋祭）、「月の音舞台」（ソングサート）、「月見の宴」（有料）等を年中行事として行っております。

又ご祈願では戌の日は安産祈願で多くの方々にお詣り頂いております。当宮の特色はへその緒で結ばれた母子が健康で出産の時を迎えられる様にお願いを込め、厚生労働省の許可を頂き妊婦にやさしい気配りのマタニティマーク入りの「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を昇殿祈願された方のみ特別に授与しております。

それに昨年の御鎮座九百五十年の式年を機に従来の岩田帯（安産腹帯）を「大宮八幡息長帯」と命名して授与しております。これは当宮のご祭神が応神天皇と仲哀天皇（父）と神功皇后（母）の親子三神であり、その固い絆から子育て八幡さま、子女神と称えられております。特に応神天皇は胎中天皇とも称され、御母の胎内にあるときよりご神威を発揮されました。又神功皇后は御腹に応神天皇を既に身籠られたまま天の神託により三韓の平定に向かわれましたが、陣痛（出産）を抑える為に石（鎮懐石）を御裳（袴）の腰帯に巻きつけられてご出陣になり、凱旋後に筑紫国にお戻りになり応神天皇をご出産されました。お産まれになられたところが宇美と名付けられています。

神功皇后（息長帯比賣命）が陣痛を抑えるため腰帯で石を巻き付けられたこの故事から、当宮で安産祈願した腹帯（岩田帯）を「大宮八幡息長帯」と名付け、お産まれになるお子様とお母様に延命長寿と幸運が授かる様にと祈念して調製しております。尚昨年の御鎮座九百五十年の式年を奉祝していわきの絵のぼり絵師辰昇氏により扁額「子守神功皇后之図」が奉納されております。

神功皇后が赤ちゃんの應神天皇を慈しんでお抱きになられている母子図で、傍らには黒雲（厄）を振り払いお二人をお守りする武内宿禰の姿が描かれております。母子二神の深い情愛と絆が見事に表され、子育厄除八幡さまの当宮に相応しい扁額であります。因みに聖母神、聖母大菩薩として、母子神信仰が伝承されている地域もあります。

以上、社報のバックナンバーより、現在定着しつつある新しい年中行事やご祈願を繕いてみました。これ等については役員総代の皆様のご理解とご支援があったればこそ感謝致しているところであります。

御鎮座九百五十年式年奉祝記念事業の第一期事業中、最も大規模な事業の御社殿北側のバリアフリー化整備に伴うス

ロープ設置工事と併せ、外拝殿南北両石階段の擬宝珠付高欄増設並びに手摺設置工事及び南北両石階段の銅板葺屋根掛工事が去る一月中旬より着工されました。ご参拝の方々には長い間ご不便をお掛け致しておりますが、8月末日に面目を一新して見事に竣工の運びとなりました。9月1日の朔旦祭に併せて竣工奉告祭。引き続き竣工清祓式が斎行されます。この整備事業の竣工により、車椅子に乗られたままご神前より近くで親しくご参拝することも出来、又南北の両石階段にも手摺りが設置されましたので、昇殿参拝（ご祈禱）に越した際にはこれも一重に、記念事業の推進に際し奉賛会を結成頂き、実行委員の皆様が中心に各氏子地域で奉賛金の勧募活動を積極的に行い進め頂き、多くの氏子崇敬者の皆々様のご理解とご支援を頂き多額の真心からのご浄財をお集め頂きました賜ものと感謝申し上げます。

今年の大宮八幡祭りは新装増築されたご社殿で氏子奉幣祭（9月14日）並びに本社本庁より献幣使ご参向のもと例大祭（9月15日）が斎行されます。また14日に行われる第29回神輿合同宮入りは、氏子6地区より9基の神輿が一体となって聖なる拝殿前の広場で所狭しと繰り広げられ、その神輿振りは祭りの最高潮であります。

昨年の御鎮座九百五十年奉祝大祭の第28回合同宮入り、当日早朝より台風の影響による豪雨の為、朝の時点で中止となつてしまいましただけに、今年の神輿振りに期待されております。

いずれにしても9基一同の神輿振りは城西随一とも云われ、ご社頭は多くの参詣者で賑わいます。熱気溢れる能動的なエネルギーなパワーは担ぐ人々も陪観の人々も神々として一体であることを体感して頂くこと出来る時でも有り、神人合一の境地へと高められる神人感のひと時でもあります。八幡大神様の广大無辺なご神威をお受け頂くお祭りは、氏子地域の町内会全体や氏子崇敬者の皆様も精神的に一段と高められ、心のバランスも保たれます。

大宮八幡祭りに多くの方々にお詣り頂き、更なるご神縁を結ばれ、心安らかな生活をお送り下さいますよう、ご祈念致しております。

（平26・8・3記）

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭、氏子奉幣祭、第二十九回神輿合同宮入り

夏の暑さも和らぎ、秋の気配を感じる9月、恒例の**大宮八幡祭り**が行われます。まず13日には夕刻6時に**宵宮祭**を斎行。翌14日は午前10時より**氏子奉幣祭**が執り行われ、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の氏子より寄せられるご浄財が氏子幣として大前に奉獻されます。また、氏子各地区より神輿の社参が午前中より次々に行われ、午後6時よりの**第29回神輿合同宮入り**には氏子6地区から9基の神輿が一斉に神門内大前に練り込み、祭は最高潮に達します。15日は午前10時に神社本庁より献幣使参向のもと**例祭**を斎行。秋の実りの感謝と皇室国家の安泰と氏子崇敬者各位の隆昌発展を祈念いたします。

このほか14日午後には、小笠原宗家による弓の神事**三三九手挟式**。

13日は、大宮幼稚園園児民謡踊り・杉並太鼓・方南エイサー踊りなど期間中様々な神賑行事が奉納されます。また9月9日より16日まで清涼殿の節句**菊被綿**が展示されます。



氏子幣を奉じて参進(14日)

大宮八幡祭り期間中の祭事

- 菊被綿神事 9月8日夕刻〜翌朝
- 神輿神霊入れ祭 9月12日
- 若宮八幡神社 例祭 9月12日
- 白幡宮 9月12日
- 各神幸所清祓・宮司巡拜 9月13日
- 宵宮祭 9月13日
- 氏子奉幣祭 9月14日
- 第29回神輿合同宮入り 9月14日
- 例祭 9月15日
- 神輿神霊返し祭 9月16日
- 後朝祭(直会ノ儀) 9月16日
- 十五夜の神遊び(仲秋祭) 10月5日



表参道の賑わい(13日~15日)

神賑行事

- 弓道奉納射会 9月7日
- 第16回菊被綿飾り 9月9日〜16日
- 奉納書画行燈 9月9日〜16日
- 献燈提灯 9月9日〜10月5日
- 大宮幼稚園園児神輿宮入り 9月12日
- 大宮幼稚園園児民謡踊り 9月13日
- 杉並太鼓 9月13日
- スカウトバザー 9月14日
- 町内神輿渡御・社参(昼間) 9月14日
- スカウト神輿 9月14日
- 小笠原流三三九手挟式 9月14日
- 高井戸囃子 9月14日
- 奉茶(裏千家) 9月15日
- 野点茶会(裏千家) 9月15日
- 舞楽(俊成雅楽会) 9月15日
- 方南エイサー踊り 9月15日
- 盆栽展示会 9月13日〜14日
- 第36回献華いけばな小原流展 9月12日〜16日
- 露店「百二十店」 9月13日〜15日

第29回神輿合同宮入り

14日には、大宮八幡祭りのハイライト神輿合同宮入りが行われます。夕刻に、八幡前通りに9基の神輿が集結。木遣りの音頭を合図に午後6時出発。表参道を渡御して7時すぎより次々と神門をくぐり大前に参入します。担ぎながら社殿前に進み全9基揃つての神輿振りは実に圧巻で境内は興奮の渦に包まれます。(表紙)

第16回重陽の節句「菊被綿」

菊被綿は、重陽の前日の9月8日に菊の花を白、赤、黄の真綿で覆って菊の香りを移し、9日早朝朝露で湿った真綿を顔にあてて若さを保とうとするもので、平安時代前期に宮中行事に取り入れられ幕末まで行われていました。当宮では、この菊被綿神事を斎行し、菊被綿飾りを9月9日より16日まで清涼殿ロビーで公開します。



第14回十五夜の神遊び・月の音舞台

旧暦9月13日の十三夜に合わせて、10月5日に第14回十五夜の神遊びが斎行されます。神遊びとは神慰め、神祭りのことです。夕刻まず陪観の人々によって



「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理『月見御膳』をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後（午後8時頃より）開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

定賓に各次第締切りと存じますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音舞台」は行われず
※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音舞台」は行われず

お申し込み・お問い合わせは
大宮八幡宮清涼殿まで

〇三(三三三二)七五二五

竹燈籠約二、三〇〇基に火が点され、仲秋祭や雅楽神楽舞の奉奏が行われます。神楽殿での月の音舞台の出演者は、

昨年引き続き広く国内外で注目を集める尺八奏者「き乃はち」氏です。今回三度目となるき乃はち氏は尺八の調べは、名月に照らされながら、虫の音とともに鎮守の柱に響き渡り深く閑かに心に染み渡ります。また、清涼殿ではこの日に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味いただく月見の宴も催されます。



【月見御膳】

お一人様 5,900円(税込)
◎御神酒付

『月の音舞台陪観指定席』含む

限定100名



献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭り（秋の大祭）の期間中多くの参拝者をお迎えするに当り、皆様方のお名前（ご社名）を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂き度く存じております。

つきましては、左記よりご献燈を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

掲出期間 9月9日から10月5日まで

初穂料 一燈 一〇,〇〇〇円
申込締切 9月2日
（郵送は1日必着）

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



※複数燈でも承ります



御鎮座九百五十年式年奉祝記念事業

御社殿バリアフリー化事業竣工

御鎮座九百五十年記念事業の第1期事業中、最大規模事業として進められていた御社殿バリアフリー化事業が竣工、9月1日朔旦祭に併せ竣工奉告祭また、竣工清祓式が斎行されます。御社殿バリアフリー化は向かって右側(北側)にスロープ設置、南北両石階段に擬宝珠付き高欄とクネット手摺りが設置され、さらに南北両石階段上に銅板葺き御屋根が掛けられ、御社殿に相応しい両翼階段となりました。

御製掛けを奉納

当宮神門の左右門柱に掲げてある御製掛け一对がこの程篤志家により新調されました。御鎮座九百五十年式年記念として御奉納頂いたのは株式会社紀文食品様。御製掛けは縦・四メートル横0.5メートルの黒塗板製で月毎に明治天皇様を始めとする御製や御歌が掲げられています。



社殿北側 屋根掛



社殿北側 スロープ設置



擬宝珠付高欄増設



社殿南側 屋根掛

御鎮座九百五十年記念事業・奉賛金募金のお願い

記念事業の主な概要

緑豊かな、都心の杜に静まり氏子崇敬者の心故郷であります当宮は、昨平成二十五年、御鎮座九百五十年式年の佳年を迎え、式年大祭並びに式年奉祝大祭が厳肅に厳肅に賑々しく斎行されました。この意義ある式年の佳節に当り、私共の遠い父祖の代より氏子の人々がその時々にご神恩に感謝しつつ、一つ心に赤誠を尽くして営々と努力され、鎮守の杜に相応しくご社頭を整備して今に残して下さっている様に、私共も先人にも見習い、これから続く子や孫の為にも意義ある記念事業を実施して、氏神信仰に受継がれてきた尊い伝統を次世代に継承し、報恩感謝の真心を捧げて参りたいと念願致し、平成二十四年に奉賛会を結成し奉賛近刊簿活動を実施しております。

◇第一期事業

一 御社殿北側バリアフリー化整備事業

・スロープ設置工事

一 外拝殿南北両石階段バリアフリー整備

・擬宝珠付高欄・檜材増設工事

・クネット手摺り設置工事

・銅板屋根掛工事

一 御社殿内拝殿御帳・外拝殿及び神門帳の新調

一 表参道大幟ポール(二対)設置工事

一 南参道鳥居扁額の補修工事

一 弓道場振武殿改修工事

一 結婚式場清涼階段バリアフリー整備

一 階段クネット手摺り設置工事

一 結婚式場清涼殿「亀の間」改修工事

一 結婚式場清涼殿ロビー・階段カーペット張替工事

一 普賢文字の書畫は、既に工事が完了した書巻です。

一 祭典費・記念品費・事務費等諸経費

合計九、九〇〇万円

◇第二期事業

一 結婚式場清涼殿バリアフリー整備

一 エレベーター設置工事

一 トイレ改修等バリアフリー付帯工事

合計五、四〇〇万円

総事業費一億五、三〇〇万円

平成二十六年 新春 大宮八幡宮奉賛会

奉賛者芳名簿

(その6)

平成26年4月1日〜7月31日

※二万円以上のみ掲出、敬称略、順不同

方南南地区

一金伍万円

(有)相川電気

代表取締役相川卓雄

(計壹拾伍万円)

一金壹万円

浅井 香久子

方南北地区

一金伍万円

細野 伊佐雄

社務所披

一金貳拾五万円

(株)紀文食品

村井 洋

一金貳拾万円

村井 洋

一金壹拾万円

梶原 正巳

(計壹拾参万円)

内藤 智一

(計貳萬伍千円)

高江洲 綾子

山口 昭久

関根 和美

柴田 和子

石田 善計

齋藤 康忠

齋藤 由華

齋藤 幸祐

小林 吉雄

池田 明行

山室 節良

吾妻 靖隆

一金参万円

小島 典明

上原 昭

一金壹万円

柴田 和子

石田 善計

齋藤 康忠

齋藤 由華

齋藤 幸祐

小林 吉雄

佐久間 純

関根 和美

(株)ROMY

高江洲 綾子

山口 昭久

内藤 康代

(計貳萬伍千円)

内藤 智一

(計貳萬伍千円)

高江洲 綾子

山口 昭久

関根 和美

柴田 和子

石田 善計

齋藤 康忠

齋藤 由華

齋藤 幸祐

小林 吉雄

佐久間 純

池田 明行

山室 節良

吾妻 靖隆

一金参万円

小島 典明

上原 昭

一金壹万円

柴田 和子

石田 善計

齋藤 康忠

齋藤 由華

齋藤 幸祐

小林 吉雄

佐久間 純

関根 和美

(株)ROMY

高江洲 綾子

山口 昭久

内藤 康代

(計貳萬伍千円)

内藤 智一

(計貳萬伍千円)

高江洲 綾子

山口 昭久

関根 和美

柴田 和子

石田 善計

齋藤 康忠

齋藤 由華

齋藤 幸祐

小林 吉雄

佐久間 純

杜の話題

春の大祭(わかば祭)齋行

境内の樹木が青葉若葉鮮やかに映る5月初旬、当宮春の大祭(わかば祭)が3日より5日まで行われ多くの参拝者で賑わいました。また、大祭に先立ち4月29日には昭和天皇のご聖徳をお賛え申し上げ、昭和祭を齋行しました。3日午後には春の大祭第日ノ儀(稚児健康祈願祭)が齋行され、第36回稚児行列も初夏の日差しに包まれて56名のお稚児さんがお参道を練りました。4日は春の大祭第二日ノ儀を齋行、神楽殿では第14回「わかばinおみや」が催され舞踊家山崎雅子氏による神話を題材にした舞踊が奉納演奏されました。次いで第14回挙式者の集いが清涼殿で催されました。午後2時より当宮みどりの会主催の植樹祭を執行。祭典後には参列者に苗木が授与されました。5日は春の大祭当日祭(尚武祭)



が齋行され、皇室国家の安泰・氏子崇敬者の繁栄が記念されました。期間中には古武道武技や杉並太鼓や方南エイサーの奉納や大宮八幡植木市も開催され終日賑わいをみせました。



神輿を被災地に松ノ木睦会が姉妹友好神社の仲介で

梅雨の合間の好天の6月15日、当宮社殿にて、杉並区松ノ木町会・松ノ木睦会の子供神輿の清祓式が行われました。宮城県気仙沼市本吉町鎮座の八幡神社(山内義夫宮司)は、東日本震災の折、ご本殿のみ残して、社務所・社宅・蔵・車庫全てが津波により流され、同地区も家屋の70パーセントが津波により流失して、現在も約一千人が避



難生活を余儀なくされています。祭礼に使う神輿や幟・獅子頭なども格納庫ごと流されましたが、この度当宮と姉妹友好神社の宮城県岩沼市鎮座竹駒神社(千葉博男宮司)のご仲介により、大宮八幡宮氏子松ノ木地区(瀬沼宏章責任役員)の子供神輿が譲渡されることになりました。当日は、八幡神社宮司とともに及川菊助・高橋剛責任役員、竹駒神社宮司、松ノ木地区総代、松ノ木睦会会長参列のもと、「松ノ木睦会子供神輿引渡奉告祭併せて清祓式」を齋行。大宮八幡宮清涼殿にて直会、その後竹駒神社の車にて気仙沼市本吉町八幡神社に運ばれました。今秋の八幡神社例祭(本年は9月7日)には、子供たちの手によって絆の神輿がかつがれることでしょう。

第15回裏千家献茶式

第15回「裏千家献茶式」が5月14日に行われました。茶道裏千家今日庵鶴雲齋千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕のもと、厳かにご神前に濃茶と薄茶が献じられました。また併せて、裏千家淡交会東京第七西支部の担当主催による奉賛添茶茶会が開かれ、濃茶席・薄



茶席・立礼席の三席が設けられ賑々しく催されました。また、大宮幼稚園においても恒例の幼稚園茶席が開かれ緊張した面持ちの園児たちが、日頃の練習の成果を披露しました。

立正佼成会青森教会参拝

立正佼成会青森教会の皆様が5月9日、当宮に参拝されました。バス1台にて当日早朝に出発長旅を経て夕刻に来宮、昇殿参拝後、神職の説明を受け、境内を散策されました。

夏越の大祓神事

水無月の夏越の大祓神事が6月30日、齋行されました。今年前半の知らず知らず身に付いた罪穢を祓清め、気持ち新たにしたい残る半年を迎えます。神門前広場の茅の輪前にて、まず、大祓詞を宣読、切麻と形代にて自祓の儀の後天と地が祓われました。次いで参列員は左右左と茅の輪を三度潜り社殿に進みました。大祓神事に引き続き社殿では、大祓修了奉告並に大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭を齋行。6月21日から29日まで開かれた大宮八幡塾主催の書写会で浄



書された、りんどう会をはじめ氏子崇敬者41名の大祓詞が大前に奉納されました。

伊勢神宮式年遷宮奉賛会 東京都本部杉並区支部解散式

第六十二回神宮式年遷宮にあたり遷宮奉賛会東京都本部が、平成19年2月に東京大神宮を会場に発足、杉並区では同年大宮八幡宮清涼殿にて同支部設立総会を開催しました。爾來奉賛会杉並区支部による募金活動が氏神社を中心に行われ、杉並区は東京都内第4位にあたる目標割当額の131%の奉賛金を達成し本年7月3日、当宮清涼殿にて解散式が行われ、区内神社23社に対して神宮大宮司より感謝状が贈呈されました。尚、第六十二回神宮式年遷宮は昨年10月内宮・外宮の遷御の儀が浄暗の中厳修されました。

珍客到来〜モモンガ〜

7月初旬、神門前樹木の樫の木に、モモンガが現れました。人づてに聞くとところ早朝、するすると下から登っていったようです。突然の珍客に人だかりとなり、にわか撮影会になりました。



した。当のモモンガは動ずることなく我関せず状態。カラスの様子も気になりましたので一時保護して杜の茂みに放しました。

第16回七夕の神遊び 乞巧奠飾り

平成11年の天皇陛下御即位十年を奉祝して当宮では平安の七夕飾り乞巧奠を再現して、7月1日より15日まで清涼殿で公開しました。乞巧奠は古代中国の魔除けの風習と牽牛織姫の伝説にわが国の棚機女の信仰に結び付いた行事です。午後6時より社殿にて



七夕の神遊び(技芸上達祈願祭)が斎行され、次いで神門前に設けられた樫の葉に七夕人形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした大宮八幡乞巧潜り神事を神職の後に続いて約50名の参列者が左右と三度くぐりました。その後清涼殿ロビーに進み乞巧奠を拝礼しました。神門には、大きな笹竹飾りもつくられ参拝者は銘々に願い事を短冊に書き、満開の花咲くように笹竹が鮮やかに彩られました。また5日と12日の土曜日の夕方には、

乞巧奠飾り前にて雅楽の夕べが催され、豊栄舞・浦安舞と雅楽の調べが奉奏されました。



第14回納涼大宮天神こどもまつり 「杜のひびきinおみや」

夏の風物詩、「第14回大宮天神こどもまつり」が7月24・25日に行われました。大宮幼稚園や近隣の小学校、一般の有志の方々よりご奉納いただいた約三百点の書画行燈に夕刻より灯りが入れられ、24日午後5時より



大宮天神宵宮祭が、翌25日午後5時より学業成就を祈願する大宮天神祭が斎行され、引き続き午後6時より、こどもあかりみこしが賑やかに境内を巡り、子供三花火の集いも行われました。また午後6時半より「杜のひ

りんどう会だより

当宮敬神婦人会(りんどう会)は昭和祭前日の4月28日、わかば祭りを迎えるにあたり御垣内清掃奉仕が行われました。会員らの手により掃き清められ、拭き上げられました。6月3日、総会を開催。総会後に、七夕飾りや乞巧奠飾りに飾られる可愛らしい小物作りに熱中しました。また、大宮八幡塾「水無月書写会」が6月21日より29日まで神社と共催で行われました。清らかな心を込めて書写された大祓詞をご神前に奉納し大神様の大稜威頂くもので30日の大祓神事に続き斎行された大祓詞浄書奉納奉告祈願祭で神前に奉納されました。また、大宮幼稚園園児が作った飾りをつつ丁寧に笹に飾り付けた「福笹」約300体は大祓参列のみならず授与されました。当会では随時会員を募集しております。お気軽に事務局までお申し出ください。



びきinおのみや(時間を外した日の神事)として、響道宴氏による和太鼓などの奉納が行われ、境内に迫力のある和太鼓の響が轟き陪観の方々にご感応いただきました。



大祓形代流し旅行

夏越しの大祓で納められた形代を灰にして流し清める大祓形代流し旅行が7月27日、28日の両日に亘り行われました。今年は、25名の参加で、群馬県富岡市ノ宮に鎮座する上野国一之宮貫前神社と長野県上田市に鎮座する生島足島神社を参拝しました。27日、早朝当宮を参拝して出発、関越道・上信越道を進み上野国群馬県へ、一之宮貫前神社を正式参拝してのち軽井沢で昼食散策後、千曲川にて形代流し、別所温泉に宿泊、信州最古の温泉と地元の旬の料理



で信濃旅情を満喫して懇親会にて親睦を深めました。翌日は別所の古刹(常楽寺・北向観音・安楽寺)を参詣し、ハーモニカ電車で有名な上田電鉄に乗り、生島足島神社を正式参拝、小諸ワイナリーにて昼食をとり夕刻に無事帰着いたしました。

第31回戦没者慰霊祭

終戦記念日である8月15日、氏子区域より出征した英霊をお慰めする第31回戦没者慰霊祭が清涼殿特設会場にて、今年も全国戦没者追討式に合わせ正午の時報を合図に黙祷。終わりに慰霊祭となり当宮と兼務社の氏子の英霊329柱に感謝し、慰霊と追悼の誠が捧げられました。



旧本殿の現況調査実施

杉並区文化財調査の二環として杉並区教育委員会により進められていた当宮旧本殿建物現況調査の中間報告が去る6月纏められました。当宮旧本殿は五十年前、御鎮座九百年事業として行われた新社殿御造営で解体の仕儀となりましたが、旧本殿は境内西隣の村田家屋敷地に旧本殿と拝殿向拝部分が移築され、

秋の大祭後の主な祭典行事

- 10月中旬 第36回杉並大宮菊花展
- 11月上旬 新年度神宮大麻頒布始祭
- 氏神社神符奉戴式
- 11月15日 月次祭並七五三祝祭
- 11月23日 新嘗祭
- 12月13日 第24回 杉並花笠祭り
- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓(年越大祓)
- 除夜祭
- 平成27年
- 1月1日 歳旦祭
- 1月2日 小笠原流曇目の儀 大的式
- 1月3日 元始祭
- 1月15日 古札焼納祭(どんど焼)

大宮八幡宮 氏子青年会だより

当宮氏子青年会は、7月24・25日の納涼大宮天神こどもまつりに摸擬店を出店しました。24日の宵宮祭では、突然の豪雨に見舞われ大わらわでしたが、25日の本まつりには好天に恵まれ、焼きそば・かき氷が飛ぶようになくなり、スパーボールすくいなども行われ盛況でした。



ボーイスカウト・ガールスカウト募集

ボーイスカウト 杉並13団

ガールスカウト 東京62団

小学一年生から各学年ごとにいつでも入団できます

初宮詣芳名(誌)

(平成26年3月24日〜平成26年7月31日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 坂野瑞樹 北洞瞬 石川慶 伊藤珠穂
- 岡田唯生 井上果音 富澤彰太 田中英音
- 奥隅開理 渡部結衣 上田陽菜子 中島櫻子
- 小笠原杏奈 鈴木瑠莉 國吉陽暉 石川大地
- 高橋まり 高原昂大 野田環太 村上二花
- 本田風磨 手島羽奏 北村芽吹 倉重匠吾
- 高橋美乃 田中志季 朝倉光軌 高橋英治
- 鈴木稜大 加藤美希子 山岸春仁 白石遼
- 竹田津乃愛 古殿悠 古屋良汰 泰地杏
- 永野杏菜 宮竹通 黒坂仁喜 渡邊士流
- 川俣由希 渡邊湊斗 橋理玖 松坂芽育
- 篠田莉風 穂積悠希 横内優馬 小濱光利
- 小林一葉 大坂莉史花 二階堂唯 木村あかね
- 柴田紗弥 福田春馬 岩田唯 高橋奏結
- 小内瑠太 笹田莉菜 佐々木壮太 角田緒菜
- 小原結菜 原蒼汰 緒方眞百合 小川絢
- 服部結女 藤島千世 細田翔慎 赤羽權
- 村田虎大朗 池上旬 伊豆伊織 荻原理玖
- 岩佐桃花 進藤悠月 染川真奈 大坪果歩
- 阿座上陽馬 田中優衣 須藤大駕 鈴木都
- 大類蒼 飯島杏朱 恵柑菜 漆原嵩彦
- 大谷啓人 穴吹瑛美 森要一郎 井口桜子
- 安武駿人 有木咲織 高村音羽 立部杏梨
- 茨城明希 樋川咲乃 山本匠真 田村海樹
- 高山龍信 神沼かれん 袴田直太郎 阪尾花桃
- 生沼彩華 三木柑奈 飯塚果歩 鈴木蒼真
- 林絵莉 梶谷昂希 渡邊至禱 花崎音和
- 山田勇磨 相原瑠七 渡邊玄太 白倉もえ
- 室井柚珠 林昂史 吉川朋希 谷川瑞樹
- 桑原旺佑 清水紗那 熊部聡美 岩田希実
- 白根瑚々 守屋颯真 神谷希桜 古谷奏真
- 加藤駆 白川和花奈 土藤菜寧 正岡菜那

- 原ふたば 戸塚ちひろ 草野富貴 片岡瑠人
- 米谷優芽 後藤朱璃 南谷瑠羽 齋藤将實
- 高橋芽生 野中輝之助 鈴木翔太 安田果音
- 小笠原優成 石塚紗奈 全先桜祐 倉田果音
- 千代田虎明 北森瑛人 津田珠典里 作山碧音
- 千代田龍ノ助 池田蒼衣 塩崎岳大 畑瀬初妃
- 小林あお 松本実怜 中山恵都 齋藤謙信
- 山本陽菜 後藤結翔 井山健太 太田誠司
- 岩間彩加 橋本莉々菜 末松永梧 西山心晴
- 佐々木将人 吉田美涼 折原心遥 智原牙
- 日高悠吾 川口結子 吉田彩乃 石原和
- 中野陽菜 小野珠輝 川合琉珩 鈴木こり
- 伊東杜馬 落合優風 三浦悠陽 武野馳
- 三上礼菜 小山晴輝 山本琴春 今崎巨亮
- 佐々木晴慶 坪井奏磨 平柳莉良 益山陽太
- 山家一華 立木佑実 渡邊貴樹 谷口英莉加
- 月岡莉緒 井上寛人 望月莉麻 田中孝司朗
- 坂口晴香 大坪絵美花 大場絢葉 稲葉陽輝
- 原川壮太 萬谷優之介 今井優 及川睦人
- 西谷颯真 井出啓太 加藤煌貴 佐藤光佑
- 高木創史 小林結希江 高橋春仁 小池利乃愛
- 成島凌乃 木下海翔 古友遥陽 三浦環
- 三塚一花 小林丸人 河合萌 山田麻未
- 山下茉莉 土屋栄徳 山本明日美 齊藤愛万
- 中村結子 宇田川遥太 濱田和弥 池田雪翔
- 青島稜弥 稲垣日咲 高橋佐和 古澤元輝
- 白井結乃 緒方仁 明石理孝 川邊美友菜
- 三浦冬馬 トーマス 島内佑芽 水本理久
- 原灯里 安齊源治 篠原啓志 井上航太
- 天野智裕 竹内綾菜 眞野創太 永嶋昊将
- 横田獅立 小原康太郎 佐藤華玲 比嘉あかり
- 町田絵真 多賀悠之助 矢吹天成 小野希木
- 安優太朗 深川和哉 中井涼晴 倉岡龍介
- 成清謙吾 五代儀笙 市場裕大 野田みいさ
- 大村凜 齊藤潤平 齊藤梨緒 工藤萌叶
- 飯田真理 井上達貴 加納拓実 藤倉翔
- 狩野菜 新井陽南 梶山賢太郎 置田将士
- 片岡美乃 鎌田來末 中田隼人 高橋望

どんぐり通信

おおかやよらん

子どもたちの成長

長いお休みとなる、夏休みが終わり秋の大祭が終わると幼稚園は、運動会で二色になります。



年少さんは、初めての運動会という事で少しも楽しく！と、私たちが務めていますが、大勢の人がいる中でのかけこ。お遊戯は、小さな心で色々なことを感じ本番では何が起きるのか、私たちもドキドキしています。



一度経験をしている年中さんは、みんなで力を合わせて！と、目的を持って取り組んでいきます。ゴールを切る！

い、かわいいかけっこ。友達と協力して行う競技、そしてエアドリムは、子どもたちの頑張りが、沢山見られることでしょう。



大宮幼稚園で一番大きな年長さんが見せてくれるのは、華やかなオープニングから始まり、かっこいい走り跳び、難易度の高い組体操では、お友達を思いやり取り組むことが大切になります。最後には、クラス対抗リレー！同じゼッケン、同じハチマキ、同じバトンを持って競います。バトンを落とさないか、私たちもハラハラしながら見守ります。

閉会式では、年長さんから、年中さんへのハチマキのバトンタッチ。来年への期待が高まる時です。この運動会を終えると、本当にいつも子どもたちの成長を感じます。年少さんは、自信へと繋がりが自分の得意な物を見つけた事が出来たり、年中さんは、友達関係が充実したり、年長さんは、絆が深まります。

今年も、子どもたちの一回りも二回りも大きく成長する姿が、見られると思うと私たちも楽しみです。

教諭 池添百合子

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 山田杏未 | 吉澤優人 | 関根千紗 | 須田光太郎 | 粕谷緒未 | 佐々木拓人 | 木村理人 | 橋本芦花 | 近藤紗友理 | 渡邊怜 | 竹内沙良 | 上田佳桜 | 財満輝 | 湯之脇希 | 町田慎 | 石田優翔 |
| 川口大輝 | 内藤真太郎 | 小野学 | 米屋太智 | 宮崎篤人 | 暮石柚菜 | 楠元環希 | 澤村彩菜 | 比留間大和 | 古川愛佳 | 岡本竜彰 | 齊藤圭 | 富田琉衣 | 花山慧志郎 | 島原悠杜 | 二宮海翔 |
| 川原采和 | 西田朱莉 | 濱本悠太 | 松村岳 | 永倉千景 | 古関ようち | 田村ひかり | 貴島悠成 | 比留間武 | 片岡広樹 | 曾根あおい | 星野美吏子 | 深野伸暁 | 万木朋 | 磯田原優 | 森山拓路 |
| 島村一颯 | 岩崎菜央 | 長谷川瑠歩 | 中込蒼大 | 加藤結菜 | 松浦新 | 松浦花壁 | 菊地紗羅 | 和佐風香 | 島山陽南 | 中村樺奈 | 田中文造 | 松林宏季 | 寺島永真 | 岩坂啓嗣 | 佐藤希実 |
| 武市千桜 | 両羽環 | 渡守武史佑 | 沼田優衣 | 六戸悠真 | 田中湊人 | 水野陽希 | 原口優花 | 千田真智穂 | 今井あゆみ | 米山昊 | 後藤桃奈 | 高木咲里 | 敷田時生 | 鈴木脩真 | 日下菜々 |
| 川原結都 | 横山悠翔 | 堀口咲 | 南恵介 | 吉森章翔 | 秋山真惟子 | 田中悠月 | 富田莉央 | 小賦志海 | 並木唯 | 古館丞助 | 辺見千咲 | 川井田涼晴 | 渡辺乃乃 | 山下拓馬 | 金子愛里 |
| 烟中多聞 | 吉岡凛 | 近藤勇章 | 鈴木凱士 | 藤平夕春 | 神部千智 | 土肥春輝 | 田中翔子 | 清水暢春 | 栗原恵実子 | 富山廉仁 | 森航大 | 河内瑞季 | 岡本慎次朗 | 播磨杏珠 | 宮田悠樹 |
| 平野凌多 | 佐藤奏多 | 河合玲依 | 毛利祐喬 | 野田真櫻 | 宇田川瑠璃 | 長田洗青 | 片山紗良 | 西條遥也 | 高橋由羽 | 濱中芽依 | 井上遙香 | 横尾朗 | 小室快誠 | 野澤実花 | 高尾瑠椰 |
| 長村佑樹 | 関口陽斗 | 島崎佑音 | 岩田晴樹 | 中村青 | 松永菜那 | 島袋由梨 | 萩原瑞生 | 田村陽琉 | 三浦朱乃 | 金子将大 | 中田陽大 | 松井太亮 | 長尾岳 | 小田紅葉 | 土屋怜子 |
| 佐藤暁太郎 | 西田奈那子 | 菊地真土 | 本田歩 | 佐藤琴音 | 加藤美結 | 伊藤凜卓 | 松尾知宙 | 日黒奏羽 | 渡邊駿太郎 | 福浦咲七 | 高橋優莉 | 小林鈴 | 鶴岡咲希 | 渡邊佳央 | 前田詩菜 |
| 北村駿多 | 乾香蓮 | 菱田瞬 | 雨宮理子 | 中村圭吾 | 針原優月 | 上条萌杏 | 武政実緒 | 澤晴喜 | 島田咲奈 | 武田蒼大 | 坂本健輔 | 眞柳暖人 | 直原汐里 | 元木誠仁 | 馬場明日美 |
| 山崎美里 | 舛谷衣都 | 石塚百々 | 金畑一輝 | 渡邊櫻子 | 福原光穂 | 新谷風花 | 脇坂くらら | 戸塚理那 | 龜山幸之介 | 紫藤瑛菜 | 外園桐子 | 勅使海斗 | 佐藤早月 | 鎌倉菜々香 | |
| 竹内隆正 | 古田島彩羽 | 如山鉄太 | 細野悠成 | 上野桃佳 | 森川陽喜 | 永岡弥生 | 千田紗月紀 | 宮崎敬士 | 小林みわ | 島尾日麻 | 川原わか | 大和田礼那 | 鈴木宏彰 | 杉田詠寿 | |
| 村田紬希 | 大野陽向 | 長田隼 | 竹添玲佳 | 鈴木梅珂 | 堀野創太 | 徳田都羽子 | 安間麻人 | 中岡真緒 | 大里大樹 | 萩原大翔 | 佐藤智咲 | 中村汐里 | 今井琉駆 | 相葉佳世 | |
| 有馬梨央 | 波多野智康 | 柏田有陽 | 丸川茉莉 | 篠原悠成 | 長谷川想 | 横倉健 | 石井大雅 | 上田菜楠 | 渡辺結仁 | 松井健徒 | 橋本陽太 | 增淵慧吾 | 戸井田葉己 | 香取沙咲 | |
| 渡辺るみ | 大石瑛衣美 | 辻莉子 | 黒川湊士 | 松崎優色 | 高橋陽音 | 横田勇志 | 赤坂晴愛 | 猪又慧 | 大槻美琴 | 古澤義史 | 川上菜子 | 大嶋春也 | 竹添羽瑠 | 土屋慶悟 | |
| 小野瀬千鶴 | 田中結 | 若林凜 | 岡部華 | 佐藤ゆきの | 館野真悠 | 布施彩名 | 松本咲香 | 林咲良 | 西聡朗 | 青木菜摘 | 秋山輝磨 | 守屋陽平 | 小澤真愛 | 上岡夏 | |
| 今井智希 | 奥富咲太郎 | 本橋櫻子 | 和出英大 | 中村日向子 | 磯貝百福 | 日野青鈴 | 中野景都 | 福士花央 | 藤崎丈和 | 五十嵐実優 | 井元新郎 | 西嶋朝美 | 田井天麗 | 西村一成 | |
| 品竹翔太 | 木村朋輝 | 堀内朝陽 | 西田悠真 | 尾尻拓 | 打浪聖奈 | 原田怜 | 横田陽紀 | 小島壮介 | 江木島実 | 益田青依 | 石川采 | 志村茜奈 | 景川佳悟 | 渡邊百咲 | |
| 坂本千華 | 河内野々穂 | 濱川蓮太郎 | 野村隼平 | 宮本恒太郎 | 紺井晴生 | 小林亮吏郎 | 野村英太 | 杉若胡真 | 江木湊大 | 島田朔太郎 | 石川慧 | 後悠利 | 小峯楓菜 | 中村寧々 | |
| 庄子咲哉 | 岩村亜門 | 山口蓮 | 安部結太 | 山田咲樹 | 遠山日真剛 | 信国芹香 | 武井咲奈 | 平形巴燈 | 小林美結 | 橋元優花 | 舟久保凌太郎 | 牛尾耀 | 齋藤湊介 | 武田紗良 | |
| 児玉千幸 | 内匠快 | 荒陽太 | 加藤三晴 | 竹本にこ | 木村鼓太郎 | 菅亜里沙 | 田中彩葉 | 岩永澄 | 小林美結 | 橋元優花 | 舟久保凌太郎 | 小池朔人 | 松永一真 | 近藤舞優 | |
| 西田理桜奈 | 本間柚香 | 本永楓和 | 瓜守桜恭 | 浦野花菜 | 保坂春希 | 小柳健太 | 菊池蒼樹 | 内田咲希 | 生沼麻日 | 國分咲良 | 小谷真緒里 | 湊莉子 | 小川晴 | 田村愛羽 | |
| 村松舞香 | 松井莉桜 | 矢崎友理 | 小野新太 | 佐藤菜々子 | 賢見さき | 北村弦音 | 小林奈のは | 須郷さくら | 田中逢香 | 大石悠真 | 稲垣湊音 | | | | |
| 下ノ村紗恵 | 田葵 | 山口悠希 | 畑山桐人 | 和田真波 | 佐久間寛一 | 窪田桔平 | 横溝諒 | 伊藤ゆり子 | 石川颯真 | 城下直太郎 | 勝本祥玄 | | | | |
| 岡田真生 | 柴田凌空 | 石川結愛 | 吉澤花野 | 和田真波 | 佐久間寛一 | 窪田桔平 | 横溝諒 | 永山ひなの | 鬼川さち | 白鳥織佳 | 森作六希 | | | | |
| 佐藤亮太郎 | 池田蒼征 | 上高愛介 | 阿子島美咲 | 高橋駿太郎 | 梶尾幸大朗 | 津田旺典 | 秋山小乃羽 | 萩本拓翔 | 白井正大 | 若尾真里亜 | 田村怜 | | | | |
| 広脇匠真 | 三迫英誠 | 長谷幸哉 | 河相瑛大 | 吉永紡 | 田内春瑠 | 若狭南帆 | ワツサーマン | 小島帆貴 | 清水結月 | 今宮遙真 | 石井陽樹 | | | | |
| 窪田權 | 高原萌希 | 河野稟乃 | 小澤遥斗 | 三浦直人 | 小野はな | 藤井晶子 | 長田朗生 | 須田百花 | 竹尾駿兒 | 中西美結 | 瀧川怜佳 | | | | |
| 大友陸豊 | 澤柳那菜 | 吉田杏 | 大西董 | 足立原環奈 | 望月すみれ | 関内二葉 | 杉本綾音 | 守安理桜 | グロリア | 森井美月 | 綿貫帆夏 | | | | |
| 吉澤千暖 | 成木奏太 | 前田真子 | 伊藤海空 | 日笠詩子 | 梅田麻里絵 | 山本蓮翔 | 蛸川綾乃 | 束岡乃彩 | 齋藤千明 | 小野寺陸 | 伊藤秀介 | | | | |
| 亀井千暖 | 杉田莉奈 | 伊藤咲翔 | 平松瑛舞 | 小林陽亮 | 徳武わか | 境原健 | 吉田徳之介 | 濱田大生 | 浅田啓太 | 小川藍 | 福田聖空 | | | | |
| 伊藤春佳 | 高野絢華 | 岡奈緒 | 名取琥太郎 | 遠藤翔太 | 松川咲恵 | 大竹悠華 | 片山凌駕 | 長谷川遙 | 二上楓子 | 倉田あかり | 菅原悠慎 | | | | |
| 木村凌輔 | 石川隼 | 勝田一帆 | 狩野鈴沙 | 堀越柚花 | 野上奈生 | 伊藤敦男 | 伊藤誠悟 | 柴野瑞季 | 舟越結 | 三橋万織 | 小笠原志宇 | | | | |
| 片山朝陽 | 山室優佳 | 岩尾陶子 | 長瀬友紀 | 與更紗 | 奥田詩乃 | 石原新太 | 荒木翔 | 伊勢川深織 | 岡本浩聖 | 三峰才花 | 後藤百香 | | | | |
| 坪井桜 | 桶谷紗奈 | 松井虹朗 | 中川奏真 | 河喜多咲希 | 岡野琴 | 森瑚那生 | 大下尚瑛 | 東小園伸太 | 岩橋舞 | 荒木智智 | 青木あさき | | | | |
| 菊地創朗 | 宇佐見旭 | 小山真桜 | 三宅琉可 | 本城美遥 | 榎本海翔 | 田中麻衣 | 明石梨瑚 | 本松爽乃 | 篠原樺夢 | 八杉弥咲 | 松田藍里 | | | | |
| 高崎順也 | 鈴木弥太郎 | 杉本湊太 | 佐々木直希 | 渡邊美羽 | 山田日陽 | 落合晴哉 | 田中瑠里海 | | | | | | | | |
| 芥川泰規 | 圓岡善 | 高橋海翔 | 佐々木泰希 | | | | | | | | | | | | |

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成26年4月1日〜平成26年8月31日)

- 柳生昌彦・安藤由美子・田中孝之・田中宏美
 北村俊介・本谷美果 吉田洋・杉本朝子
 黒沼良成・高澤奈美 江山本吉・田沼都代奈

毎月・お朔日参りを
ついでに
 致しましょう

御鎮座九百五十年記念奉祝 フォトコンテスト入選作品の発表

昨年、御鎮座九百五十年記念奉祝行事としてフォトコンテストを開催いたしました。近隣の写真店にも御協力をいただき、3月31日までに18名63点の作品が集まりました。杉本恭子審査委員長はじめ、宮司・審査委員方々の厳正なる審査のもと、最優秀作品1点・優秀賞2点ほか各賞が選出されました。また、その他7名が入賞、5月6日には表彰式が行われました。当日は受賞者らが集い、杉本審査委員長を代表にまず正式参拝。次いで大宮八幡宮清涼殿亀の間にて表彰式が行われました。各賞が次々に発表され、審査委員長より講評、各作品のポイントや撮影のコツなどが指摘されました。

宮司賞（最優秀作品）



フォトコンテスト作品展示風景
(清涼殿ロビー)



大野貴義氏 『当たれ!』

奉賛会実行委員長賞



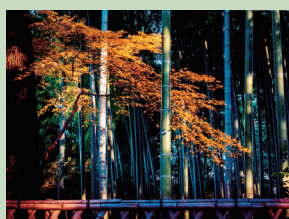
酒井初美氏 『奥様、傘をどーぞ!』

審査委員長特別賞



堀内幸雄氏 『竹林から見た神門』

金賞



永島政和氏 『秋の日差し』

銀賞



小峯重信氏
『がんばろう日本』

銀賞



宮坂幸輝氏
『晴れ姿』

銀賞



菅野真紀氏
『しあわせ
幸福見守る、カエル。』

銅賞



岩井一真氏
『光彩の神庭』

銅賞



一條稜真氏
『どんど焼き』

銅賞



酒井勝氏
『お稚見さん』

第二回フォトコンテスト作品募集

都心の中にながら広大な境内を有し、周囲を豊かな自然に囲まれた当宮は、四季折々に様々な花が咲き誇り木々が生い茂り、参拝者の目を楽しませております。

そんな当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂き、明平成27年の大宮八幡祭り（秋の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催致します。どうぞ皆様奮ってご参加頂きますようお願い申し上げます。

応募期間

平成26年5月1日～
平成27年6月30日



第一回 作品展

Aコース…2Lサイズ部門
Bコース…4ツ切サイズ部門
大宮八幡宮に関係した作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

プロ・アマ・年齢不問
小・中・高校の学生さんも歓迎！

両コース共に、写真店での現像にてご応募下さい。（一人5点まで）
応募作品についての注意事項は、社頭やHP上に要項をご確認下さい。

協力写真店

- ホッタカメラ本店（浜田山）
- フォトグラフ三荒堂（大宮八幡宮入口）
- パレットプラザ永福町店（永福町）
- カメラハウス本店（久我山）
- ストックワーク（中野）

◆応募票に必要事項を記入して、右記協力写真店に持ち込むと、参加作品に限りプリント代20% オフの特典があります。

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。（※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きます。）

祝七五三詣

七五三年齢表

七歳	女児	平成20年生
五歳	男児	平成22年生
三歳	男・女児	平成24年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：毎日朝10時～夕方5時まで開催

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸を一杯にすることでしよう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげて下さい。大宮八幡宮で全てをお決め頂ける展示ご予約会のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で実施致します。熟練のスタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせて頂きます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



もり 緑豊かな都心の杜。 感動の瞬間

初宮詣 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

幸福撫でがえる石

清涼殿を出た右手に「幸福撫でがえる」石があります。幸福が得られるようにと祈念して、当宮御鎮座九百五十年式年の記念に名付けられました。

結婚式や披露宴、あるいはお祝いの席の後に、ぜひ「幸福撫でがえる」石を撫でて、更なる幸せが訪れることを願っております。



社報「大宮」第一〇〇号を振り返って

氏神と氏子の交流を目指して

当宮三十有余年の歩み

昭和56年8月1日、社報第一号が創刊されてより今号で一〇〇号を重ねました。新春、春大祭、秋大祭の年三回の発行で既に32年の年月が経過しましたが、社報の記事をピックアップして

第一号創刊の辞では「氏神と氏子の親密な交流を計り、神社の働きを平素より知っていただくため」と創刊の目的を記していますが、一、二号では大宮八幡の今昔を語るとして当時の責任役員様に昔日の思い出などを語って貰うところから社報は出発しました。合わせて新社務所や社号標の建設など進行中の諸事業の紹介も行いました。また大宮幼稚園の活動紹介として「幼稚園だより」を掲載したのも一号からです。

昭和58年新春号（五号）では一面で竣工なった新社務所を紹介、御奉賛に感謝申し上げます。

また59年春大祭号（九号）では南参道大鳥居の建設などを特集、初めて表紙をカラー化、朱塗りの色映える社報となりました。この頃「笏のさとやき」も設けられ、神社からみた社会事象への寸評のコーナーとなりました。

昭和60年9月、当宮御鎮座九百二十年大祭が斎行され、南参道大鳥居竣工など一四号から一七号にわたり九百二十年関係の諸行事諸事業が紙面

を賑あわせました。昭和62年正月の一七号ではチャリテイ青空市を掲載、収益金は世界宗教者平和会議（WCRRP）日本委員会の世界の一食運動に充てられることを紹介しましたが、現在も春のわかば祭りにユニセフバザーとして行われています。

昭和から平成に大御代が代わると5年は当宮御鎮座九百三十年。皇太子殿下御成婚の慶事も迎え、御成婚並御鎮座九百三十年奉祝の例大祭を斎行、5年9月の三七号は御鎮座九百三十年奉祝号として作成されました。

また著名人の参拝が相次ぐようになったのもこの頃から。地元と縁の若乃花、貴乃花の両横綱にはお子様の初宮詣でや七五三詣で度々ご参拝を頂きました。また三杉里関は身体健勝を祈願、俳優の場浩司さんや西武ライオンズの松井稼頭央選手がご参拝。平成11年11月には石原伸晃衆議院議員（現環境大臣）のご子息のお宮参りで石原都知事らご一家全員でご参拝を頂きました（一五七号）。

伝統行事再現への取り組み 区内初の裏千家献茶も

平成11年、天皇陛下御即位十年の佳年を奉祝して始められたのが平安の七夕神事「乞巧奠」（五五号）と重陽の節句の「菊被締」です。乞巧奠は古代中国の魔除けの風習と牽牛織女の伝説

我が国の欄機つ女の信仰が結び付き、芸上達を祈願して宮中を中心に行われてきた行事です。当宮では筆硯や短冊、雅楽器や五色の布や糸をお供えして清涼殿ロビーにて乞巧奠飾りを再現。「神遊び」とは神祭りの事ですが7月7日夕刻には「七夕の神遊び」を斎行、技芸上達祈願祭に続き平成の七夕・大宮八幡乞巧神事が神門前にて執り行われます。今では清涼殿の乞巧奠周りの四本の笹竹に七夕人形（神職や巫女の装束姿の折紙）や墨書の梶の葉等を飾る新しい笹飾りとして「平成の七夕・大宮八幡乞巧奠飾り」がお目見得しています。また乞巧奠飾り前、雅楽の夕べも奉奏されます。

同じく御即位十年を記念して再現されたのが9月9日重陽の節句の宮中行事「菊被締」（五六号）。前日8日、菊花を真綿で被った真綿を顔にあてて不老長寿を願うもの。当宮では8日夕刻、菊被締神事が行われ、拜殿回拜下に並べられた菊に赤、白、黄の真綿がかぶせられ、翌9日朝の日供祭にて献供、その後清涼殿で展示公開が毎年行われています。

またこの年平成11年春には第一回の裏千家お家ご奉仕による献茶式が杉並区内初の行事として催され、以降裏千家今日庵千室宗丞氏、前お家正十室宗丞氏のご奉仕で毎年春に行っており頂いています。（一五五号）。

夏の風物詩

納涼大宮天神こどもまつり

また当宮夏の風物詩として平成13年より天神様のご縁日の7月25日に、境内大宮天満宮で「納涼大宮天神祭り」を奉

仕（六一号）。「杜のひびき in おおみや」として和太鼓の奉納演奏などを実施。涼を求める家族連が多いことから24年よりは「大宮天神こどもまつり」として斎行「こどもあかりみこし」や「二花火のつどい」も行われ、氏子青年会の模擬店も前日の宵宮祭から出店。また区内の小中学校や幼稚園、一般から献納され、境内に掛けられた書画行灯五百余に一斉に点灯され、夏の夜を彩っています。

九百四十年奉祝「十五夜の神遊び」

大宮八幡宮の杜新能も奉仕され

こうした新しい行事の取り組みを進める中平成15年には当宮御鎮座九百四十年を迎えました。九百四十年では役員総代により奉賛会実行委員会を組織、特殊舗装など神門前参道広場、社号標建立など南参道、赤門の基礎上げなど北参道——の各整備事業を実施。平成15年9月には御鎮座九百四十年記念大祭が斎行されました。

この九百四十年を奉祝して14年9月20日夕、第一回「十五夜の神遊び」が催されました。御社殿前の竹灯の浮き蠟燭数百基に浄火が点され、仲秋祭を斎行。その後毎年杉並区文化協会の後援を得て「月の音舞台」を開催。今では竹燈も一、二〇〇基を数えるようになり、清涼殿で「月見の宴」も催され、鳴虫すだく名月ととも秋の一夜を楽しんで頂いています。

また「大宮八幡宮の杜新能」が催されたのも九百四十年奉祝の15年10月から。「杉並で能楽を楽しむ会」の主催でボランティアの皆さん、また観世流能楽師等のご奉仕で平成25年まで十回

を数えました。

エポックメイクな一〇年を

この御鎮座九百四十年の平成15年より御鎮座九百五十年を迎える平成25年までの10年の歩みも三笠宮殿下御参拝、御祭神應神天皇一千七百年大祭と当宮史にとってもエポックメイキングな10年となりました。

平成18年新春号(七四号)劈頭の「丙戌歳の年頭に思う」(宮司巻頭言)は前年晩秋に出された首相の諮問機関による女系天皇容認論、皇統の危機への憂憤を表すものでした。

翌七五号の「この国を愛する心」(同)では秋篠宮妃殿下ご懐妊のニュースを「神風が吹いたが如く」とお伝えし、七七号に悠仁親王殿下ご誕生を掲載することが出来たのは何か社報を通じて祈りが御祭神に届いたようでした。

この同じ七七号では氏子内より長年待たれていた当宮敬神婦人会りんどう会の18年9月発会を伝えています。小正月どんと焼きでのげんざい配布や夏越大祓の大宮八幡塾書写会など同会の活動は社報で折に触れて取り上げてきました。

当宮初の皇族殿下御参拝

平成20年10月31日は九百五十年の当宮史に取っても特に明記すべき日となりました。それは三笠宮殿下の御参拝です。(八三号)。

この日正午、三笠宮同妃両殿下には当宮に御到着、清涼殿貴賓室にて御小

憩のあと、宮司先導で社殿に進まれ、修祓、豊栄舞のあと玉串拝礼。殿下、妃殿下が各々紅白の立玉串を御奉奠御親拝遊ばされました。

次いで記念の植樹として高野槲をお手植え、杉並大宮菊花展を御覧頂きました。境内御散策のあと清涼殿で催された殿下の御著書『わが歴史研究の七十年』の御出版のお祝いの会に臨まれました。

お祝いの会には古代エジプト学を始め殿下に親しいオリエント研究者が出席、当宮宮司夫妻も陪席し、和やかに御歓談。両殿下もおくつろぎのご様子でした。

御即位二十年と御祭神壹千七百年

翌平成21年は天皇陛下御即位二〇年・両陛下御成婚五十年のめでたき年であり、当宮では御即位二十年奉祝記念事業として清涼殿二階の集宴会場の改修工事を実施。環境面を重視したデザインにより効率的で使い易い施設として同年秋リニューアルオープンしました。(八五号)

そして平成22年は御祭神應神天皇壹千七百年式年祭記念の年。当宮では壹千七百年式年祭記念のわかば祭り(春の大祭)と大宮八幡祭り(秋の大祭)例祭・氏子奉幣祭を奉仕、御神威の愈々の発揚を乞願しました。またこの年は大宮幼稚園創立六十周年の年でもあり六月、創立六十周年記念大会を開催しました。(八七・八八号)

平成23年3月11日の東日本大震災、当宮では日々起こる余震や放射線災害

等の沈静化と一日も早い復興を願い3月20日東日本大震災復興祈願祭を斎行。WCRP(世界宗教者平和会議)日本委員会を通じて被災地への復興支援活動を行いました。(九〇号)

また24年2月には御鎮座九百五十年を前に氏子の青年の力を結集しようと氏子青年会が発足しました。(九三号)

御鎮座九百五十年式年社頭整備の集大成事業として

社頭整備の集大成事業として

そして平成25年。当宮が源頼義公・義家公によってこの地に創建されてより九百五十年の式年を迎えました。御鎮座九百年には現社殿の造営と清涼殿の建設など現在の結構の基礎が築かれ、その後の周年事業によって各種境内整備が進められてきましたが、九百年以降の集大成としてこの御鎮座九百五十年記念事業に着手、御社殿北側向拝のスロープ付設、御社殿南北向拝石階段屋根掛工事及び手摺り付設表参道石階段手摺り付設などの境内のバリアフリー化が現在進められています。

この御造営事業と同時に平成25年春から秋にかけて御鎮座九百五十年式年の諸祭儀諸行事が執行されました。

まつ5月3日より6日にわたり御鎮座九百五十年式年大祭を斎行。5日には本宮石清水八幡宮よりご下賜の勅祭・石清水祭「御花神饌」がお供えされるなか式年大祭当日祭を斎行。神社本庁献幣使としてご参向の田中恆清神社本庁総長(石清水八幡宮宮司)が神社本庁よりの幣帛を献じ祭詞を奏上。

また本宮石清水八幡宮幣及び全国八幡宮連合幣が奉幣使・同連合宮井伸久総理より奉られました。続く直会では田中総長、立正佼成会庭野日鏡会長、石原伸晃環境大臣よりご挨拶を賜りました(九七号)。

ついで5月26日午前、式年大祭奉祝の中心的行事、小笠原流・流鏑馬神事が境内表参道の特設馬場を会場に第三十一代宗家小笠原清忠氏ら小笠原一門のご奉仕で御鎮座九百年以来、五十年振りより斎行され、鎌倉の武者絵巻が繰り広げられました(九七号)。

そして9月には御鎮座九百五十年式年奉祝大祭(大宮八幡祭り)を斎行。15日の奉祝大祭並氏子奉幣祭には氏子六地区よりの浄財が氏子幣として大前に奉献されました。また16日には当宮初の神事として「いけばな小原流 献花式」がお家元御名代ご奉仕により斎行。

また11月24日には奉祝の志野流香道献香式がお家元峰谷宗玄宗匠様のご奉仕により10年振りに執り行われました(九八号)。

以上一号より社報「大宮」のページをめくりながら一〇〇号の歩みを振り返ってみました。九百五十年の悠久の流れの中のだかだか三十余年の社報史ですが各員の背後に読者の皆様方の強い崇敬の思いが垣間見得てくるようであります。

第一〇〇号に当たって「神社の働きを平素から知って頂く」という創刊の趣旨に立ち返り、愈々神社の情報発信活動を盛んにしてやる所存です。ご理解とご協力の程をお願いします。

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月13~15日

例祭 [15日 午前10時]・氏子奉幣祭 [14日 午前10時]



豊穡感謝と皇室国家安泰を祈念し祝詞奏上



赤誠籠もる氏子幣を神前に供え、氏子祈願詞奏上



神楽浦安の舞の奉奏

第29回 神輿合同宮入り [14日 午後6時 大宮宮元會神幸所前御発輿]



江戸消防記念会第九区八番組による木遣り奉納



勇壮な神輿振り



9基が揃って社殿前に宮入り

氏子町会神幸所

大宮地区

大宮宮元會神幸所

方南地区(南・北)

峰睦会神幸所

新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所(上)

方南東神幸所(下)

(峯栄会神幸所)

和田地区(東・西)

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

大宮 第100号

平成26年 秋の大祭号

平成26年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話 (3311)0105 FAX(3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp

奉納神賑行事



献華いけばな 小原流展 [12~16日]



杉並太鼓 [13日]



大宮幼稚園園児民謡踊り [13日]



小笠原流三三九手挟式 [14日]



佼成雅楽会による舞楽の奉奏 [15日]



方南エイサー踊り [15日]